

### 事業評価調書（新規）

課名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 福田 稔 基盤整備係長 (角谷和一郎)	内線	4003 (4014)
----	---------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	事業区間	総事業費	2.7億円
		基盤整備促進事業 (農山漁村活性化プロジェクト支援交付金)	しみず しんでんちく 清水新田地区	内用地補償費	0.2 億円
所在地			事業採択予定年度	着工予定年度	完成予定年度
明石市魚住町清水			H24	H24	H28
事業目的				事業内容	

<p>本地区の農地は、第2神明道路明石西インターチェンジの南北に位置し水稻を中心とした個別経営農家が主体の地域であり、農業従事者の高齢化や後継者不足から、これからの地域農業をいかに持続、発展させていくかが課題となっている。</p> <p>この状況を改善するため、今後、都市近郊の立地条件を生かしたキャベツ等の野菜の地場流通、黒大豆の米菓会社との契約栽培及び飼料作物の作付けによる畜産農家との連携を進めるとともに、農業機械の共同利用による効率的な農業を目指すこととなった。</p> <p>しかし、現況農地は小区画不整形で道路、水路も未整備であり、生産性の向上や畑作を進める上での支障となっていることに加え、後継者の育成にも苦慮しているところである。</p> <p>このため、区画形質の改善や水路・道路などの整備を行なうとともに、担い手への農地集積を進め、効率的安定的な農業展開を図り、優良農地を将来にわたり維持・保全する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区画整理 14.3ha</li> <li>・ 補助率 [国:50%, 県:13.5%, 市:31.5%, 地元:5%]</li> <li>・ 事業主体 (仮称) 清水新田土地改良区</li> </ul>
--	--

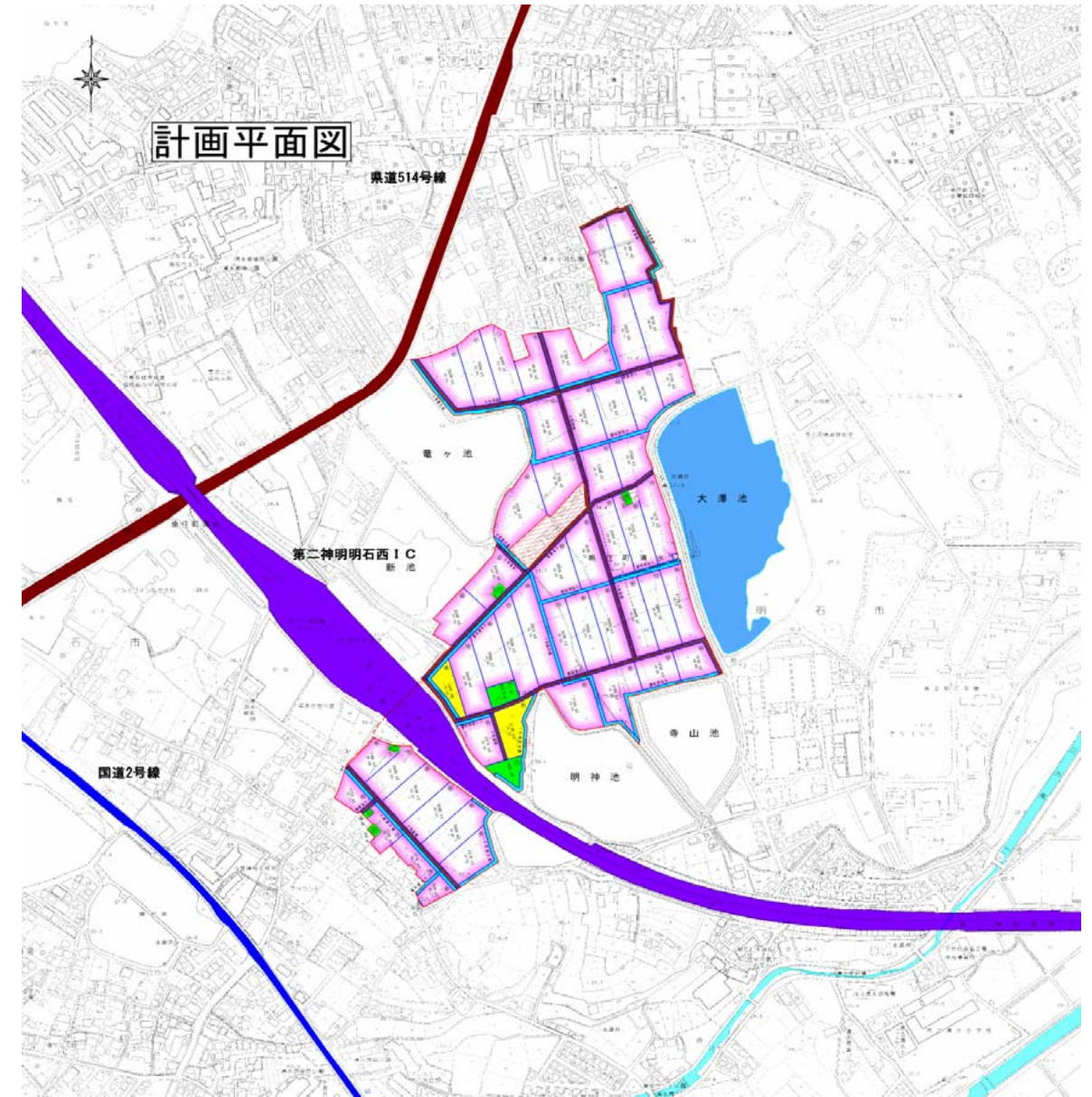
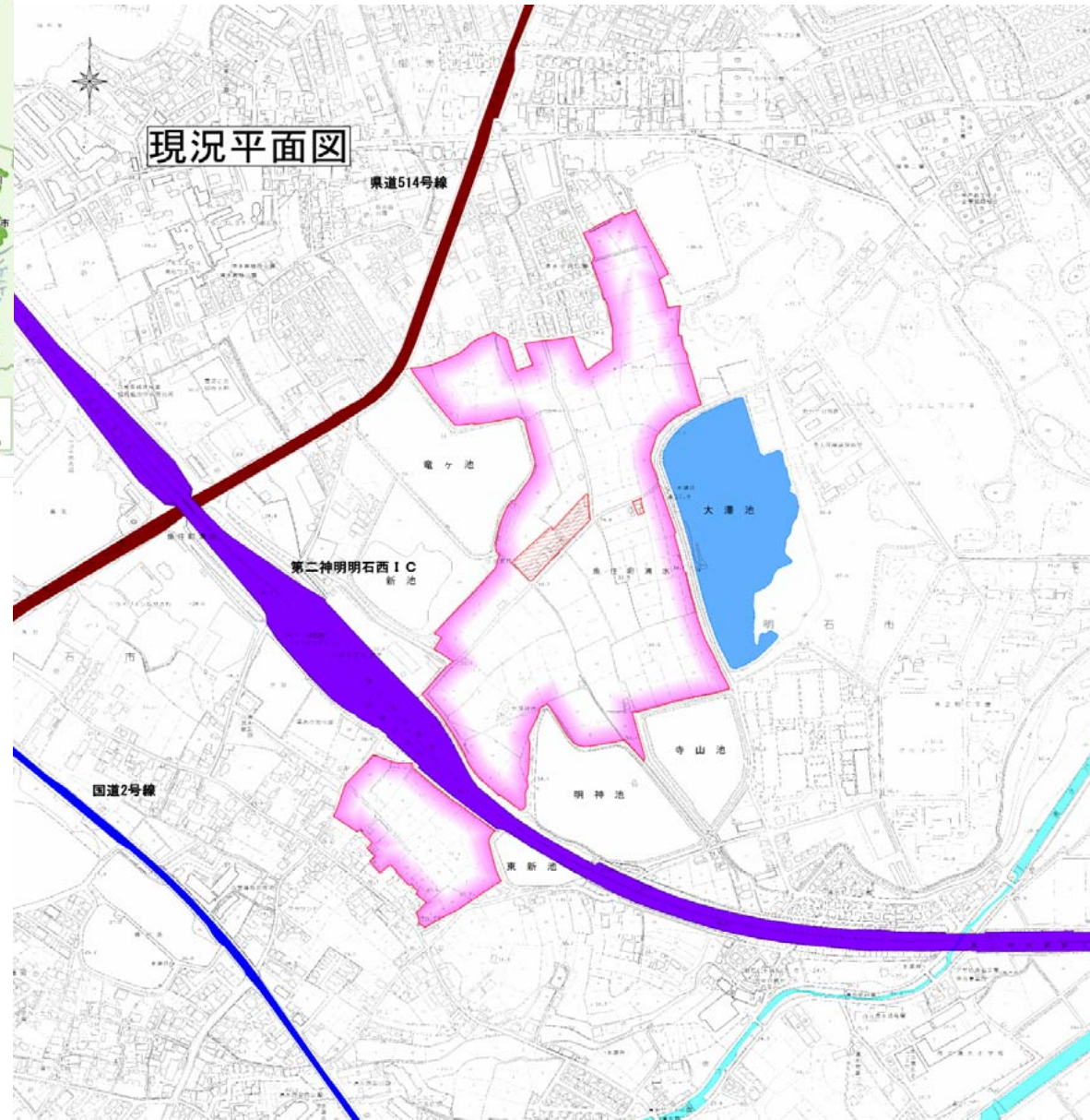
評価視点	評価結果の説明																																
(1) 必要性	<p>基盤整備の実施により</p> <p>① 労働生産性の向上を図る。</p> <p style="text-align: center;">水稻の10a当たり労働時間： 40.2hr→11.1hr 黒大豆(黒豆) 10a当たり労働時間： 113.4hr→51.9hr</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>水張面積</th> <th>水稻</th> <th>黒大豆</th> <th>飼料作物</th> <th>キャベツ</th> <th>計</th> <th>耕地利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現況作付面積</td> <td>14.3 ha</td> <td>9.3 ha</td> <td>0.6 ha</td> <td>0.1 ha</td> <td>0.3 ha</td> <td>10.3 ha</td> <td>72.0%</td> </tr> <tr> <td>計画作付面積</td> <td>13.5 ha</td> <td>8.8 ha</td> <td>2.0 ha</td> <td>2.1 ha</td> <td>0.6 ha</td> <td>13.5 ha</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>差</td> <td>△ 0.8 ha</td> <td>△ 0.5 ha</td> <td>1.4 ha</td> <td>2.0 ha</td> <td>0.3 ha</td> <td>3.2 ha</td> <td>28.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">*整備により道路幅員・水路断面が拡張されるため農地面積は減少しています。</p>	区分	水張面積	水稻	黒大豆	飼料作物	キャベツ	計	耕地利用率	現況作付面積	14.3 ha	9.3 ha	0.6 ha	0.1 ha	0.3 ha	10.3 ha	72.0%	計画作付面積	13.5 ha	8.8 ha	2.0 ha	2.1 ha	0.6 ha	13.5 ha	100.0%	差	△ 0.8 ha	△ 0.5 ha	1.4 ha	2.0 ha	0.3 ha	3.2 ha	28.0%
区分	水張面積	水稻	黒大豆	飼料作物	キャベツ	計	耕地利用率																										
現況作付面積	14.3 ha	9.3 ha	0.6 ha	0.1 ha	0.3 ha	10.3 ha	72.0%																										
計画作付面積	13.5 ha	8.8 ha	2.0 ha	2.1 ha	0.6 ha	13.5 ha	100.0%																										
差	△ 0.8 ha	△ 0.5 ha	1.4 ha	2.0 ha	0.3 ha	3.2 ha	28.0%																										
(2) 有効性・効率性	<p>総費用総便益比 B/C=1.26 (総便益額B=429百万円、総費用C=339百万円)</p> <p>投資効率が1.0以上であり、事業として効果が十分期待できる。</p>																																
(3) 環境適合性	<p>排水路屈曲部に小動物、ヌマガエル等の生息空間の連続性を確保するため、スロープ付き柵の設置を行なう。</p>																																
(4) 優先性	<p>既存農業機械の整理を進め、中型機械の導入と集落営農による都市近郊の立地条件を生かした高収入農業を目指す営農意欲の高い地区であり、その基礎となる農地整備が早急に求められており優先性は高い。</p>																																



# 基盤整備促進(農山漁村活性化プロジェクト交付金)清水新田地区 説明図



凡	例
受益地	
畑地	
非農用地	
計画道路	
計画水路	
計画排水路	
高速道路	
国道	
県道	
河川	
ため池	



地区内の農地は小区画不整形で田越しによる作業をを強いられている



農道は狭く安全上問題である。



水路は土水路で用排兼用のため分離する必要がある。



- 新規事業
- 新規事業

当初計画 基盤整備促進事業(基盤整備) 清水新田地区 事業スケジュール

工程	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	備考
実施設計	←→							
区画整理工		←→				→		
その他(換地)	←→					→		

○B/C根拠  
便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
ほ場整備	①作物生産便益 (農作物の収量増加による便益)	作付け増加による収益の増加  計画作付面積×(計画単収－現況単収)生産単価  湿田改良による収穫量増による収益の増加 作付け増減面積×現況単収×生産物単価  整備により水路の機能が保全されることで現況単収が維持確保される効果 現況作付面積×(現況単収－水路が機能損失した場合の単収)×生産物単価
	②営農経費・維持管理節減効果 (中型機械化により作業時間が減少することによる経費節減便益・水路の泥上げや草刈などの維持管理に要する費用節減便益)	区画整理により中型機械での作業が可能となることによる作業時間の軽減や、土水路がパイプラインになることで用水管理に要する時間が減少することによる経費節減額 (現況単位当り営農経費－計画単位当り営農経費)×節減効果発生面積 既設の施設と計画施設の維持管理費の比較による経費節減額 既往施設維持管理費－計画施設維持管理費
	③耕作放棄地防止効果 (施設の更新により耕作放棄地防止の便益)	受益地域のアンケート調査を基に、事業実施しなかった場合に発生すると考えられる各年の耕作放棄面積を想定し、その面積での作物生産額を効果として算定する。  事業が実施されなかった場合に予測される耕作放棄面積×単位面積当り作物生産額

総費用総便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	便益		費用			B/C
		便益額 (百万円)	代表的な効果	C(総費用) (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
ほ場整備	(農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 基盤整備)	①作物生産便益	137	大豆等の作付面積増 0.6ha→2.0ha	339	270	1.26
		②営農経費・維持管理節減効果	289	水稻営農時間 40.2hr→11.1hr/10a  パイプライン化による 用水管理手間の軽減			
		③耕作放棄地防止効果	3.0	水稻の作付変化 (耕作放棄発生率0.24%)			
		B(総便益費)	429				